

新しい都心の住まいを作る

まちなか住宅

■「まちなか住宅」とは

「まちなか住宅」という言葉はあまり聞きなれない言葉ですが、今回はこの「まちなか住宅」について少し紹介したいと思います。

「まちなか住宅」とは一般的に、密集した市街地の中で、ある程度の連担した宅地に建てられた住宅で、当該地区のまちづくりに沿って景観に配慮されたものを指しています。

神戸市では、震災後5年以上経過した現在でも、既成市街地内で更地のまま放置されている場所が見受けられます。このような再建の見込のない更地に「まちなか住宅」を建設することにより、地域の安全面・衛生面の向上がはかれると考えられます。また、その地域の人口の呼び戻しや良好な民間住宅の供給を誘導することも併せて期待できます。

■長楽町2丁目「まちなか住宅」事業

長田区長楽町2丁目は、野田北部地区の中にあります。この地区は、震災により甚大な被害を受けましたが、その後、住宅市街地整備総合支援事業や街なみ環境整備事業などにより着実に復興が進んでいる地区です。

この地区内で再建の目途なく放置されている連担した更地を神戸市住宅供給公社が取得し、新たに「まちなか住宅」を供給する事業が進められています。

供給される住宅は4戸で、全て鉄骨造3階建です。敷地面積は約 80 m²~100 m²、延床面積は約 140 m²となっています。建物の外観は周囲の街並みと調和するように配慮されており、統一された景観を創り出し



長楽町2丁目「まちなか住宅」

ています(写真上)。この住宅は10月末現在でほぼ完成しており、来年2月に入居予定となっています。

■まちなかモデル住宅

来年4月より開催される「すまい・まちづくりフェア」においても前述の「まちなか住宅」のコンセプトを踏襲した「まちなかモデル住宅」を展示することが計画されています。これは「まちなか住宅」をモデル住宅として建築中から展示を行い、一般の方々にこれからの市街地住宅のあるべき姿・方向性を提案することを目的としています。

現在、長田区内の2ヶ所で「まちなかモデル住宅」の事業に着手しています。それぞれコンペ及びコーポラティブにより事業を進めていくことになっています。この2ヶ所以外にも数ヶ所で事業化に向けて協議中の敷地があり、条件が整い次第事業に着手する予定です。

住民主体のまちづくりを進めるには、住民の皆さんが、住んでいる地域の魅力、課題等を一緒に考えることが大切です。
今回は青少年の立場で地域を考える事例として「青少年環境カルテ」を紹介します。

「青少年環境カルテ」の作成 地域で守ろう育成環境

神戸市では、神戸市青少年問題協議会（以下、青少協という）と共に、地域ぐるみでの青少年の健全育成と非行防止をめざしています。その一環として、地域環境を守るため、危険箇所のチェックや有害広告物・自販機の監視・調査などを内容とする「青少年環境カルテ」を、青少協の各支部（市内160支部、原則として小学校区単位）で、青少年育成委員（全市約6300人）が中心となって作成しています。

青少年は、地域環境から様々な影響を受けながら成長していきます。従って、青少年をとりまく環境がやさしさや思いやりの感じられるものであり、また安心して生き生きと過ごせることが大切です。そのために「子どもの目線」で地域の状況を見つめ直し、育成環境を守っていくことは、大人に課せられた責務とも言えるでしょう。

◆「青少年環境カルテ」とは…

「青少年環境カルテ」は、子どもの心を育む環境を地域ぐるみで作りあげるための環境評価のチェックリストであり、また地域での健全育成や環境浄化活動を進めるうえでの重点ポイントを知って、普段の活動に生かしていくことを目的としています。

◆調査項目としては、

- (1)「通学路・公園等の安全度」
- (2)「非行が行われるおそれのある場所」
- (3)「青少年が夜間に入出入りしている店」
- (4)「有害な広告物・自動販売機のある場所」
- (5)「地域が子どもたちにとって心のやすらぐ場になっているか」



青少年環境カルテ

を考えるため、地域のなかに自然とふれあえる場所や集団で遊べる場所などがあるか、なども見ていきます。

◆調査の結果内容

平成10年度から3年続けて、夏の青少年育成市民運動強調期間に合わせて、青少協の支部単位で全市一斉調査をしました。

- (1)については、交差点等での交通事故が最も多く心配されており、
- (2)では、公園を中心に数多くの指摘がなされ
- (3)では、コンビニエンスストアが多くありました。

(4)では、電話ボックスの中のテレクラピアが繁華街を中心に発見されています(写真)。

(5)については地域ごとに自然的・物理的条件で違いがありますが、コミュニティの力で



宮本支部（中央区）のみなさん

「子どもたちの居場所づくり」を考えるきっかけとなりました。

◆「青少年環境カルテ」の活用

普段の育成活動に生かすと共に、気づいたことは警察等関係機関に報告しています。作成を



西神中央支部（西区）のみなさん

契機に、地域の公園の遊具を建設事務所と地域の人々や子どもたちが一緒になって美しく塗りかえた例もあります(写真)。

◆「こども110番 青少年を守る店・守る家」とのネットワークづくり

「青少年環境カルテ」には「青少年を守る店・家を訪ねて」というコーナーがあります。



こども110番のステッカー

「守る店・家」の方々には、良好な地域環境づくりと子どもが被害者となる事件の未然防止に緊急避難場所として協力していただいています（全市約1万軒）。「守る店・家」と青少年育成委員とのネットワークを強め、地域ぐるみの青少年の健全育成活動の輪を広げて行きたいと考えています。ご協力をよろしくお願い致します。

お問い合わせは

市民局生活文化部青少年課まで

電話 078-322-5182

●はじめに

市民主体のまちづくりが進むにつれ、あるいは近年のコンパクトシティ構想においても、自然や環境など地域固有の資源への気配りが謳われるようになってきた。なかでも、歴史的なものに関しては、それが身近でわかりやすいことも手伝って、「歴史を活かしたまちづくり」が各地域で進められている。

私は昭和58年の入庁以来8年間、教育委員会において文化財保存に携わり、その後もアーバンデザイン室に配属されるなど、歴史的資源に触れる機会の多い仕事に携わってきた。その中で経験してきたことを中心に、「まちづくりに歴史を活かすということ」はどのようなことなのかを考えてみたい。



●北野異人館の保存

北野の異人館街は、そのエキゾチックな雰囲気と神戸の持つイメージとが重なって、いまや年間2~300万人が訪れる神戸観光の目玉である。

北野の異人館の歴史は、明治期、居留地で働く外国人たちが山手に住宅を求め、段々畑があるくらいで人家もまばらだった北野に洋風住宅を次々に建てていったのが始まりである。最盛期には200棟を超えていた異人館も、第二次大戦の戦火や戦後の都市開発などにより次第に姿を消していった。

異人館の保存活用が本格化したのは昭和50年代に入ってからである。風見鶏の館や萌黄の館（当時は白い異人館）を神戸市が借り上げて公開したり、伝統的建造物群保存地区の指定を受けて保存修理に取り組んだりしていった。同時に遊歩道や公園の整備、サイン設置やシティループの運行なども進め、建物の保存だけでなく街全体の観光地化を図っていった。

●歴史を見る目

これを読んでいる方の中にも異人館をご覧になった人は多いと思うが、ペンキ塗り板張りの外壁や張り出し窓、レンガ煙突などの特徴ある外観あるいは住宅

としての規模の大きさに驚かれることはあっても、居間や寝室など個室の存在、ベッド・椅子式の生活に違和感を覚えることはないだろう。

しかし文明開化の時代、当時の日本人たちには随分珍奇なものに思えただろう。便利で住み心地のよい平地より坂道だらけの山手高台を好む理由、部屋ごとに名前をつけて鍵までかけようとする感覚など、理解に苦しむことが多かった。

じつはこの時に外国人たちが持ち込んだ考え方が、その後の日本の住宅の近代化に結びつき、現代へと繋がっているのである。つまり、ベッドや椅子のある暮らし、プライバシーを重視した部屋づくり、山手=高級という感覚など、今ではまあ当たり前となっている家づくりの考え方のルーツは明治の異人館にあると言ってよい。

いっぽう、台所が主屋になく女中の住む付属屋にあるという造りなど、受け入れられなかったものも多々ある。

北野の異人館を訪れたとき、その中の何が現代にとけこみ、何がとけこまなかったのかを考えながら見て歩くのも興味深いものである。

●何を残すのか

こうして異人館の歴史をたどっていくと、現在公開されて我々の目に触れるいわゆる「公開異人館」は、どれくらい歴史の証人として昔のことを語ってくれているのかが気になってくる。

〇〇館、△△館と名付けられた公開異人館は、しかし残念ながら、本当の歴史とはあまり関わりのないものになっているようである。中には、明治の外国人たちがまるで王侯貴族の生活をしていたかのように、煌びやかな家具と衣装で飾り立てているものもある。

異人館に限らず、観光に歴史的建物を活かそうとすると、どうしても「ハデに目を引くしかけ」を競うのは避けられないようだ。なぜなら、本当のものは実は地味であり面白くないことが多いからである。北野の場合でも、明治や大正の生活をそのまま見せても観光客は「なんだ」と思ってしまふかもしれない。

ただし、歴史とはまったく無関係に何でもやればよいかというと、それはそれで飽きられるのも早い。「何を残して、今にどう活かすのか」なかなか難しい話だが、歴史を活かすときにいつも考えなければいけない課題である。

浜田有司（住宅局住環境整備課係長）

せん太ちゃん

vol.2

宗



最寄駅

神戸高速：花隈・西元町

JR・阪神：元町

市営地下鉄海岸線：みなと元町

(平成13年7月開業予定)

まちおせん ライブラリーニュース

新着図書のご紹介

名称	著者名	発行元	発行年月
ちきゅうのペンギン	なかざわ そうた	さいたまマイブックサービス	00年5月
ぼくたちのまちづくり①ぼくたちのまち世界のまち	福川 裕一(文) 山 邦彦(絵)	岩波書店	99年9月
図説 歴史で読み解く日本地理	河合 敦	東京書籍(株)	00年1月
前例への挑戦	清水 聖義	(株)学陽書房	00年1月
魅力のまちづくり	福留 強	(財)全日本社会教育連合会	99年5月
現代日本の都市計画	北原 鉄也	(株)成文堂	99年5月
社会実験 市民協働のまちづくり手法	山崎 一真	東洋経済新報社	99年9月
まちづくりと科学	佐藤 滋(編)	鹿島出版会	99年9月
先住民と都市	青柳 清孝 松山 利夫	(株)青木書店	99年8月
これが小さな街づくり	吉野 伸	住宅新報社	99年9月
日本の都市問題を考える	中島 克己 大田 修治	ミネルヴァ書房	00年3月
公共政策と住民参加	宮本 憲一	公人の友社	99年7月

当センターにふさわしい図書資料をご紹介します。

担当、橋本まで

こうべまちづくりセンター図書室

まちづくり会館4階・TEL 361-4523

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 水曜日・年末年始

まちづくり会館からののお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期間	内容・テーマ	主催者
11月2日(木)～21日(火) (水曜日は休館です)	小磯記念美術館協力 小磯良平展	こうべまちづくりセンター 秋の企画展
11月23日(木)～28日(火)	燦の会洋画展(油彩)	出口 文雄
11月30日(木)～12月5日(火)	いろいろ展(写真・絵画等)	横江 久美子

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

11月7日(火)～30日(木)	景観ポイント賞入選作品パネル展	都市計画局アーバンデザイン室
11月12日(日) 午後2時・4時	パチュニアサロンコンサート	元町4丁目商店街・アスク音楽院 こうべまちづくりセンター

「あーばんとーく」では、これからも皆様に親しまれるニュースを提供したいと考えております。
読者の皆様からのご意見、まちづくりに関する耳寄りな情報、まちの話題等の投稿をお待ちしています。